

～E型肝炎患者の発生について～

- 6月18日、県内で、今年初めてのE型肝炎の患者が確認されました。（全国では今年、252件（6月18日現在）が報告されています。）
これまでの県内の発生は平成18年からの累計で23件です。
- E型肝炎の感染経路は経口感染であり、主にウイルスに汚染された食物、水等の摂取により急性肝炎を引き起こします。治療方法は対症療法しかありません。
- 感染予防策としては手洗い、飲食物の加熱が重要です。E型肝炎の流行地域へ旅行する際は、飲料水、非加熱の貝類等をとらないよう注意しましょう。
- また、E型肝炎は動物からヒトへの感染事例の報告もあることから、野生動物の肉等を食べる際には、中心部まで火が通るよう十分に加熱してください。特に、妊婦や高齢者は、感染すると劇症化し死亡するリスクが高まるので、野生動物の肉等を生で食べないようにしましょう。

<患者の概要>

(1) 患者

男性（70歳代）、合志市在住

(2) 職業

会社員

(3) 症状

発熱、黄疸、肝機能異常、全身倦怠感、食欲不振

(4) 経過

- 5月22日：発熱等のため、医療機関Aを受診
- 5月29日：症状の改善がなかったため、再度医療機関Aを受診
- 5月30日：医療機関Aの紹介で医療機関Bを受診
- 6月18日：血液の検査により、E型肝炎であることを確認

（お問い合わせ先）

健康危機管理課 感染症対策班 担当：嶋田、西島
電話：096-333-2240（直通）（内線 33154）

（裏面あり）

■ E型肝炎とは

- ・ E型肝炎ウイルスに経口感染すると、2～9週間の潜伏期間を経て、全身倦怠感、食欲不振等を伴い、その後黄疸が現れます。妊婦が感染して発症した場合は、劇症化する率が高いと言われています。人獣共通感染症と認識されている唯一の肝炎です。治療は対症療法となります。

(予防)

- ・ ウイルスに汚染された食物、水の摂取により感染することが多いので、予防には手洗い、飲食物の加熱が重要です。
- ・ E型肝炎流行地域へ旅行する際は、清潔の保証がない飲料水（氷入り清涼飲料を含む）、非加熱の貝類等をとらないように注意する必要があります。
- ・ 動物の内臓、特に豚レバーを食べる際には、中心部まで火が通るよう十分に加熱することが重要です。食べる前の調理の段階でも、皮膚の傷からウイルスが体内へ入ることのないよう注意してください。
- ・ なお、ワクチンは開発段階です。

■ 熊本県での E型肝炎の年間発生件数（今回の事例を含む） R6. 6. 18 現在

年	H18～H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	合計
E型肝炎	15件（0～2/年）	1件	3件	1件	0件	1件	1件	1件	23件

記録が残っている平成18年以降、県内での死亡事例はありません。

